

ほほえみ

第38号 2016年12月発行



独立行政法人 国立病院機構
七尾病院

〒926-8531 石川県七尾市松百町八部3番地の1
TEL (0767) 53-1890 (代)
FAX (0767) 53-5771
ホームページ <http://www.nanao-hosp.jp/>



「小口瀬戸の朝」橋本義則（七尾美術作家協会会員）

私達の信条

私達は、患者さんにいつも愛と思いやりの心で接します。
私達は、国の担うべき医療を提供し、地域に親しまれる病院を目指します。
私達は、質の高い医療を提供し続けていくために日々研鑽いたします。
私達は、医療の進歩に貢献するために臨床研究を推進します。
私達は、互いに協力し、働きがいのある明るい職場作りに努めます。

目次

第18回西湊まつり 武者行列に七尾病院参加!!	2
アフリカ ケニアでの無料医療キャンプに参加して	3
RIOからNANA O、そしてTOKYOへ ～七尾病院1階病棟行事“運動会”を実施して～	4
第17回結核臨床研修会報告と工事のお知らせ	5

第18回 西湊まつり 武者行列に 七尾病院参加!!

看護師長 中 島 マサ子

去る9月24日、七尾市では前田利家公のゆかりの地西湊地区で「西湊まつり」が開催されました。西湊まつりは今年で18回目を迎える、尊いお祭りだそうです。山の寺寺院群の住職らによる畠山家と前田家を偲んだ合同法要の後、街中を賑やかに練り歩きました。

武者行列に七尾病院も参加させて頂きました。当院の、藤村院長は前田利家公として、そして看護部長を筆頭とする私

達女性陣はお付きの者として、艶やかなる衣装を身に纏い1時間近い道のりを歩きました。

出発は利家公の『出立〜』の掛け声でした。沿道では利家公やお松の方を一目見ようとたくさんの方々が手を振ってくれました。

また、行列には地元の中学校の吹奏楽部のメンバーも一緒に同行し、音楽を演奏しながらの行列でした。

山の寺からの行列は暑く、着慣れない着物と草履に苦戦しましたが、終わってみればあっという間の時間でした。時代

をタイムスリップし、楽しいひと時を過ごせたことがとても誇らしく思えたひと時でした。

このような貴重な体験をすることができ、お世話してくださった西湊地区のみなさまをはじめたくさんの方々、炎天下の沿道で声をかけて下さった方々、全ての方に感謝いたしております。ありがとうございました。



アフリカ ケニアでの無料医療キャンプに参加して



臨床検査技師長 加藤 稔

アフリカには未だに医療過疎地が多く点在しています。無料医療キャンプは医療過疎地の住民に医療を届ける目的で毎年実施されています。医療チームは一般診療、検査、鍼灸、薬剤の4グループで構成されています。小職は検査の一員としてケニアでの医療キャンプに参加する機会を得ました。

2016/9/16(金)アフリカに向けていざ出発。中部国際空港から北京経由でアラブ首長国連邦の阿布ダビ国際空港へ。ナイロビ行きの便に継ぎ、東アフリカの玄関ジョモ・ケニヤッタ国際空港に到着。20時間の長旅です。ケニアは北にエチオピア、南にタンザニア、東はソマリアと国境を接する自然豊かな国です。

到着日は薬剤などの必要物資を調達し、ナイロビで宿泊。翌朝ナイロビを出発しバスで西部の町キシイのベースキャンプへ300キロの移動です。キシイに到着すると現地協力団体と合流し、休む間もなく荷物・薬剤の整理や検査試薬等の準備を行いました。

アフリカはHIV/AIDSの流行地です。医療キャンプの目的の一つはHIV検査です。今回で7度目の無料医療キャンプを行うゲム・イースト村はケニア国内でもとりわけ医療が遅れており、特にHIV/AIDS罹患率が最も高い地域です。HIV感染率が高い要因は、医療・教育の不備、文化的背景（迷信、未亡人が夫の兄弟と再婚する習慣がある、割礼しない、女性の立場が弱い、漁師に対する売春が常態化している）が複雑に絡んでいます。



いよいよ5日間の医療キャンプの始まりです。ゲム村はベースキャンプからバスで1時間ほどかかる奥地にあります。村に到着すると、多くの村民が待っていました。診療が始まる頃には長蛇の列になっていました。村にはHIV/AIDSに対する無知、迷信、偏見、差別があり、これまでHIV/AIDSはタブー視されてきました。検査を受けるだけで、恐ろしい病気に罹っていると後ろ指を指されたのです。

今回は337名もの村人がHIV検査を受けました。これは診察をうけた26.6%にのびります。HIVの陽性率は4.2%でした（日本における総人口に占めるHIV陽性者の割合は0.017%、2014年統計より推定）。2010年には23%だった新規HIV陽性者が1/5に減少したのは大きな変化です。検査を受けた人の75%は過去に同様の検査を受けた経験があり、大多数が自分の感染ステータスを知っていました。



感染ステータスを知っている人が増えた事も大きな進歩です。啓発活動が村の人たちの意識を変えたのです。

医療施設が認可されるためには、クリーンな水と電気が必要です。ゲム村では募金を実施して2014年から井戸の掘削を始めました。もうすぐ電気が使えるようになるそうです。近い将来、ヘルスセンターを設立して恒常的に医療を提供できるようになるでしょう。

今回、医療過疎地を訪問し、病気の人を助けるという医療の本質と、日本がいかに恵まれているかを再認識しました。医療人として大変意義のある体験だったと思います。医療キャンプに参加する機会を与えて下さった関係各位に厚く御礼申し上げます。



RIOからNANA O、そしてTOKYOへ ～七尾病院1階病棟行事“運動会”を実施して～

療育指導室 保育士 花 田 瞳

当院の1階病棟には主に重症心身障害（身体にも知的にも重い障害）の方々が入院し、長期にわたり療養生活を送っております。その方々にとって当院での入院は、医療の場であり、生活の場でもあります。楽しんだり気分転換をしたり、季節感を味わったり、人生の節目のお祝いをしたり…と、1年を通して少しでも生活に豊かさと、うるおいを感じていただけるように私たち療育指導室は企画・運営を行っています。

今年、秋のはじめ10月1日(土)に秋の大運動会を開催しました。テーマは『オリンピック』オリンピックYEARにちなんで、リオオリンピックの感動と興奮を七尾病院でも…ということで『NANAOPIC』と称して行いました。

聖火リレーで幕開けし、聖火は患者さん・ご家族・職員とわたり、最後は酒井看護部長へと見事につながり、大きな聖火台へと点灯されました。すると、大きな拍手と歓声がわきました。

種目は、リオオリンピックで金メダルを獲得し、盛り上がった競技（水泳、柔道、リレーなどなど）を親子で楽しめるよう工夫を凝らしました。中でも、「目指せ！ウサインボルト！」と題したリレー競技は、一生懸命に自分で歩いたり、親と子で手を引き歩いたり、歩行器などを利用し、介助をされながらも一歩ずつ進む姿に「がんばれー！！すごい！！」と大きな声援が送られ、中には感動のあまり涙する方もおられました。また、ご家族や職員による勝ち負けを賭けた真剣勝負もありました。

競技後には金メダル・銀メダルを手にし、たくさんの笑顔があふれていました。

曇り空からのスタートだった『NANAOPIC』は、途中から太陽が顔をのぞかせ、最高の秋晴れとなり、大盛況のまま幕を閉じました。これは患者さん、ご家族、職員をはじめ、七尾看護専門学校の学生ボランティアの皆さん等、たくさんの方の協力があったからこその大成功だったと感じています。

この先の夢は、2020年のTOKYOオリンピック！これからも皆で力を合わせ、より良い療育や行事をつくっていききたいです。



第17回 結核臨床研修会報告



医療社会事業専門員 上 田 竜 也

当院では平成13年度から石川県の各地で、結核医療における地域の医療機関相互の連携強化を図り、結核医療の向上に努めることを目的として結核臨床研修会を開催しています。昨年度、当院は石川県における結核診療の中核病院に指定され、本研修会により力を入れています。

平成28年10月2日に国立病院機構金沢医療センターの講堂をお借りして開催しました。

金沢市保健所所長 木曾啓介先生をお招きして、管内での結核患者の発生状況についてご講演いただきました。管内の結核登録患者は約8割が高齢者で、発病～初診まで2ヶ月以上6ヶ月未満の受診の遅れ、さらに初診～診断まで1ヶ月以上6ヶ月未満の診断の遅れが目立つこと等が述べられました。

当院職員からは堂下隆内科医師から「結核診断のポイントについて」、土島秀次外科医長から「結核症例の実際について」、加藤稔臨床検査技師長から「良質な喀痰の採取法とその評価について」、梅木里美結核看護院内認定看護師から「結核発症時の施設内対応と当院における看護について」、中川かつ枝感染管理認定看護師から「施設内での結核患者発症時の接触者調査について」と計5つの演題について、各講演者から説明がありました。講演の最後にはN95マスクのフィットテストも行いました。

研修後のアンケートは今年も好評で、「具体的な例があったのでわかりやすかった」、「基本的な内容の振り返りができた」などの感想をいただきました。

平成29年度も結核臨床研修会を開催予定です、今後も結核診療の中核病院として様々な情報を発信していきたいと思います。

外来診療棟等更新築整備工事のお知らせ

業務班長 不二井 良 正

外来診療棟等更新築整備工事が11月に始まりました。まず、新管理棟を建てるための準備工事の開始です。

第1期工事で、今ある駐車場に新管理棟（5階建）の建築、第2期工事（新外来診療棟建築）、第3期工事（駐車場等外構整備）を経て、工事全体が終わるのが平成31年5月の予定です。工事期間として約32ヵ月、2年8ヵ月にわたる長いものとなります。

これからも、安全第一で工事を進めてまいりますが、新管理棟、新外来診療棟建築の際には騒音、振動、大型車の通行等で入院されている患者さまばかりでなく、ご家族の方、外来患者さま等、七尾病院を利用される皆さま、さらには近隣の皆さまにもご迷惑をおかけいたしますが、ご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



外来診療棟・管理棟完成予想図

看護師募集!

入院から在宅までの
看護を一緒に行いましょう!

*しばらく医療の現場から
離れていた方への職場復
帰を支援するための研修
を行っています。ご利用
下さい!

問い合わせ先

独立行政法人国立病院機構七尾病院 看護課
(0767) 53-1890 (内線1104)



外来診療担当医表

外来受付時間 8:30~16:00

診療時間 8:30~17:00

	月	火	水	木	金
内科	横地	橋井	陳	藤村 森永	堂下
外科				土島	
呼吸器科	藤村 (PM)	藤村 (PM)	大谷 (PM)	藤村 (AM)	藤村 (AM:初診のみ) 堂下
ペインクリニック			松島 (AM)		
神経内科	横地	横地	横地	森永	森永
小児科	泉 (AM) 押切 (PM)	泉 (AM) 押切 (PM)	押切 (PM)	泉 (PM)	押切 (AM) 泉 (PM)
消化器科	陳	陳	陳	陳	陳
皮膚科	楠木 (AM)	藤村 啓 10:30~15:00	藤村 啓 (AM)	多賀 (AM)	坂田 (AM)
循環器科					上野 (AM)

※小児期の予防接種はじめ各種予防接種を行なっております。

病院概要

■医療法病床 240床
(一般病床/190床、結核病床50床)

■標榜診療科

内科、呼吸器内科、消化器内科、神経内科、
ペインクリニック内科、外科、小児科、皮膚科、
リハビリテーション科



案内図



JR七尾線「七尾駅」下車
→北鉄バス【和倉温泉行】にて
(3.7km./約15分)七尾病院前下車
→徒歩5分(500m.)

※平日の午前中は坂下まで
病院バスの送迎あり



編集後記

夏が終わったと思っていればもう寒くなってきました。病棟から見える木々も紅葉を終え葉が落ち、海の眺めが良くなりました。季節の移り変わりはとても早いものですね。

医療社会事業専門員 上田 竜也